第１部　指揮／土屋芳治・高畠賢・黒澤眞知子　ピアノ／藤村美里

民衆のうたが聞こえるか
レ・ミゼラブルより日本語詞　岩谷時子／作曲　クロード・ミッシェル・シェーンベルグ
編曲　武義和

笑ったり転んだり
作詞作曲　佐藤良成／編曲　石若雅弥

上を向いて歩こう
作詞　永六輔／作曲　中村八大／編曲　横山潤子

忘れないよ
作詞　石黒真知子／作曲　武義和

犬のおまわりさん　作詞　さとうよしみ／作曲　大中恩
おなかのへるうた　作詞　阪田寛夫／作曲　大中恩

あの鐘を鳴らすのはあなた
作詞　阿久悠／作曲　森田公一／編曲　青山義久

みんながみんな英雄
作詞　篠原誠／アメリカ民謡／編曲　安井恵一

民衆の歌が聞こえるか

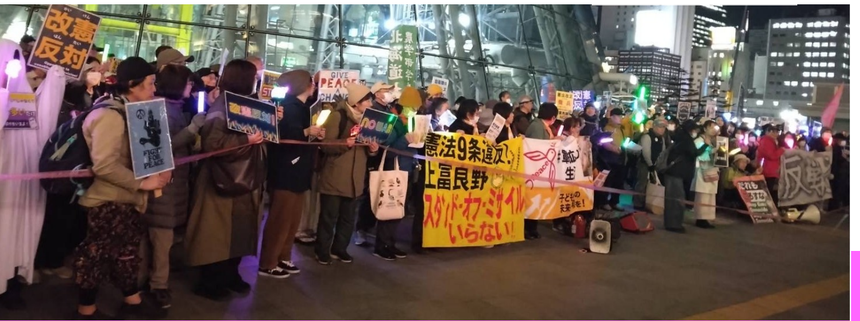
ミュージカル『レ・ミゼラブル』を代表する「民衆の歌」は、1832年のパリ六月暴動を背景に、抑圧に抗い自由を求める人々の連帯を描いた楽曲です。その力強いメロディは、単なる劇中歌を超え、世界各地の抗議行動で歌い継がれる「抵抗と希望のシンボル」となりました。暴力ではなく合唱という形で結束を示すことは、市民の尊厳と意思を権力側に突きつける強力な手段となっています。舞台の熱量が現実の社会運動と結びつき、時代を越えて自由を希求する人々の声を代弁し続ける、極めて稀有な楽曲です。(S田中)

上を向いて歩こう

「上を向いて歩こう」は、坂本九による1961年にリリースされた代表曲で、作詞は永六輔、作曲は中村八大です。この曲は、ポジティブなメッセージと深い悲しみを融合させた作品として知られています。1963年にはアメリカで「Sukiyaki」としてリリースされ、ビルボードで初の首位を獲得しました。曲の歌詞は、失恋や孤独を抱えながらも前を向く意志を描いており、多くの人々に共感を呼びました。坂本九の独特な歌声と明るいメロディーが、日本国内外で大ヒットし、今なお愛され続けています。(S堀口)

みんながみんな英雄

アメリカ民謡の「オクラホマミキサー」(藁の中の七面鳥)をゴスペル隊のコーラスを加え日本語でアレンジしたものです。作詞は篠原誠さん。特別な誰かだけでなく「挑戦しながら日々を生きる一人一人こそが英雄だ」というメッセージを、失敗や迷いも抱えた等身大の言葉で励ます応援歌です。ヒーローは特別な才能や実績のある人だけではなく、迷いながらも一歩を踏み出す人、日常を懸命に生きる人も同じように尊いというメッセージです。「泣いて笑って飯食って」と、あえて普通の生活の描写が沢山でてきます。これらは華やかな成功よりも日常を繰り返しながら、それでも前を向くことこそが尊いというメッセージです。(S佐藤)



ピアノ



札幌大谷大学音楽学部音楽学科ピアノコース卒業。在学中に卒業演奏会、卒業後に波の音会コンサート、モーツァルトアーベントピアノ演奏会、ベルソノリティーコンサート等に出演。ソロやアンサンブル、器楽や声楽、合唱などの伴奏ピアニストとして活動する傍ら後進への指導に当たる。札幌西区のShinoピアノ教室主宰。ピアノを大門敬明氏に師事。波の音会、モーツァルトアーベント各会員。

山田しのぶ



札幌大谷大学芸術学部音楽学科ピアノコース演奏クラス卒業、同大学研究生修了。卒業時、大学の推薦によりジョイントリサイタルを開催。JRタワーそらのコンサート、ハルピン音楽学院(中国)での交流演奏会、リスト音楽院セミナー優秀受講生コンサート、北海道立近代美術館コンサート、令和7年度札幌市民芸術祭新人音楽会などに出演。第18回ベーテン音楽コンクール ファイナル第3位。リトルスピリッツ常任ピアニスト。ハイメスアーティスト、札幌音楽家協議会 各会員。

藤村美里

合唱団員名簿

Soprano
石毛 妃路美
佐藤 幸恵
田中 睦子
中村 千恵子
藤宮 幸子
細川 光
堀口 むつ子
松村 恵美子
森若 美代子
石川 洋子
小崎 勢津子
品田 千鶴子
高見 優子
沼舘 亜里
本多 かほる

Alto
大塚 園子
黒澤 眞知子
成田 美枝
宮崎 鮎子
宮崎 規子
合田惠子
高木 悦子
能藤 美佐子
溝口 裕子
脇坂 米子

Tenor
佐々木 克幸
城島 洋次郎
高崎 英夫
中村 由紀男
増子 捷二
松村 宏
宮口 信博
安田 耕治
渡部 敏広
山田 直樹

Bass
大堀 尚己
河地 俊広
佐藤 寿彦
高畠 賢
土屋 芳治

※演奏団員

いっしょに歌いませんか　団員募集

練習▸毎週火・金19～21時(月に数回、土日祝日の昼間の練習に振り替えあり)
団費▸4,100円(うたごえ新聞購読料含む)、入団費2,000円
会場▸東札幌教会(白石区菊水1条4丁目)　問い合わせ▸090-9511-9469(成田)
練習見学はいつでも大歓迎、気軽にご連絡ください。

北海道合唱団のうたごえ喫茶

10/25(日)14時～　北区民センターホール北区北25条西6丁目
参加費800円　障がい者100円

ご来場をお待ちしています

来年の定期演奏会は　9/12(SUN)　札幌サンプラザコンサートホール

みんながみんな英雄



第25条　すべて国民は、健[illegible]権利を有する。
2　国は[illegible]び公衆衛生の[illegible]
第26条[illegible]に応じて、[illegible]
2[illegible]子女に普通[illegible]る。
第27条[illegible]
2　賃金、就業時[illegible]律でこれを定める。
3　児童は、これを酷使して[illegible]

2026 北海道合唱団 定期演奏会

2026年10月12日［月祝］
札幌サンプラザコンサートホール



主催　北海道合唱団　　後援　札幌市・札幌市教育委員会・札幌合唱連盟
札幌市白石区菊水1条4丁目6－36　TEL&FAX011-811-9889/090-9511-9469（成田）　HP https://hokkaido-chorus.info/

ごあいさつ

本日はお忙しい中、2026北海道合唱団定期演奏「みんながみんな英雄」にお越しいただき誠にありがとうございます。今日のプログラムを開いて、みなさんはどう思われましたでしょうか。朝ドラの主題歌あり、童謡あり、ミュージカルあり、映画音楽あり。統一感はあるのか？まるでおもちゃ箱をひっくり返したよう。誰がこんなプログラムを考えたのか？

でも、私たちにとっては、いろいろなジャンルの歌をこだわりなく歌えることは大切なことです。それができるのも今が平和で自由な時代であるからです。かつて我が国にはその自由がない時代がありました。レコードは次々に発禁処分を受け、政府の方針に従わない音楽は警察が容赦なく取り締まりました。二度と再びそのような時代がやってこないよう、私たちは音楽で平和運動に参加しています。

今、政権は憲法改定の動きを強めています。そしてそれに危機感を持った人たちが、「平和憲法はウチらが守る」と全国各地で集会やデモを行っています。みなさんはデモカレンダーをご存じでしょうか。全国で開かれる集会やデモの予定がインターネット上で見ることができ、私たちが毎月参加している札幌駅北口のスタンディング＆リレースピーチもこのカレンダーに掲載されています。それを見て多くの人たちがペンライトを持って参加するのです。政治的な団体や組織に属していない、ふつうの市民、主婦、若者が自主的に参加しているのが特徴です。こんなにたくさんの人たちが、「戦争反対」「憲法を守れ」と声を上げ、行動していることに、とても励まされます。デモカレンダーの向こうにいる人たちが、私にはみんな「英雄」に思えます。私たちもこのような人たちと手を携えて歌っていきたいと思います。

ゲストには十勝発の音楽グループ「えぞピリカ」さんをお招きしました。その魅力は多彩な編成です。三味線、民謡、フルート、ピアノ、パーカッションが奏でる自由な表現をお楽しみください。

今年も札幌周辺や遠くは室蘭から、多くの仲間が演奏に加わってくれました。たくさんの人たちと心を合わせて創りあげる音楽をお楽しみいただければ幸いです。

北海道合唱団　団長　大堀尚己

最近の活動から


2026.1.12 猛吹雪の中怒りのスタンディング



2026.5.1 メーデー


2026.5.9 ホームシックスヒロシマ公演
ナッパーズコンサート


2026.8.1 北海道合唱団のうたごえ喫茶

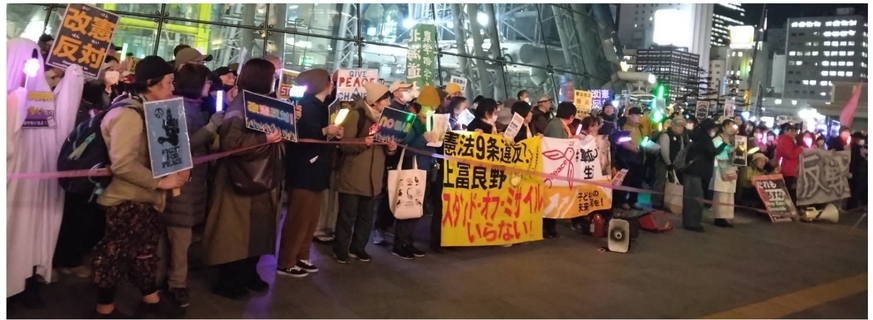

2026.9.22 北海道のうたごえ祭典inとまこまい

第２部　ゲストステージ　えぞピリカ

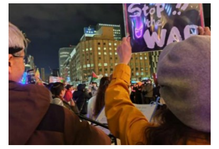
- **躍進**　作曲 加藤恵理奈
- **トカチバレ**　作曲 松山千紘
- **ソーラン節**　北海道民謡
- **千本桜**　作詞 作曲　黒うさP

北海道・十勝を拠点に活動する4人組音楽アンサンブル。フルート(**橋本麗美**)、ピアノ(**浜上恵梨子**)、三味線・民謡(**加藤恵理奈**)、パーカッション(**山中正裕**)という、クラシックから和楽器、民族楽器まで異なるバックグラウンドを持つ演奏家が集結。「北海道・十勝の情景や空気感、人のあたたかさを音にのせて届ける」をコンセプトに、ジャンルを超えた唯一無二のクロスサウンドを奏でる。地元民謡のアレンジやオリジナル楽曲制作をはじめ、地域に根ざした演奏活動を展開し、幅広い世代から支持を集めている。













第３部　指揮／高畠賢　ピアノ／山田しのぶ

いのちは一つ
作詩作曲　安広真理

びろー葉帽子の下で　その五
作詞　山尾三省／作曲　信長貴富

子どもは……
作詩　谷川俊太郎／作曲　新実徳英

ふるさと2026
作詞作曲　高畠賢／〈故郷〉岡野貞一

朱鷺が舞う
作詞　黒梅明／作曲　高畠賢／伴奏編曲　佐藤幸恵

女たちは起ち上がる
作詞　Dagný Kristjánsdóttir
　　Kristján Jóhann Jónsson
訳詞　大熊啓／作曲　Gunnar Edander

私は日本国憲法です
作詞　永井和子／作曲　高畠賢／伴奏編曲　佐藤幸恵

子どもは……

この詩は、1963年5月に週刊朝日に掲載されたもので、後に谷川俊太郎詩集「落首九十九」に収められている。1963年は、谷川さん自身の長男が3才で、長女が生まれた年である。戦争や貧困、災害などの恐怖や混沌とした状況にあっても、子どもはいつの時代も「希望」であり「喜び」であり、大人の生きる理由であることを描写している。
また、最終行の「石の腕」は、戦争の犠牲になった子どもたち、例えばお墓や像など冷たい石の中に抱かれているような状況と解釈され、どんな極限状態にあっても、大人の論理に飲み込まれず、「子どもはあくまでも一人の子どもである」という痛切なメッセージが込められている。
そして、この詩を大人の決意、大人の役目と捉えた作曲者は、今の子どもたちに平和で安全な日本を残すことを願い、この曲を完成させた。(S瀬尾)

ふるさと2026

東日本大震災による福島第一原発事故の後、すべての原発が停止し、政府は「エネルギー政策をゼロベースで見直す」としました。それが2014年の第四次エネルギー基本計画で「原発依存度を可能な限り低減」「安全最優先で再稼働」と変わってきます。それを受けて2018年時点で9基の原発が再稼働しています。2025年に決定された第7次エネルギー基本計画では、震災後ずっと書かれていた「原発依存度を可能な限り低減」の文言が削除され、「原発を積極的に活用」する方針が明記されました。さらに経済産業省は本年6月5日、2040年代までに原発を2～5基建て替える目標案をまとめ、2027年には泊原発を再稼働させる計画だといいます。
あー私たちはいったい何をしているのだろう。この国はどこへ行こうとしているのだろう。曲は2018年に創ったものですが、その時には原発を建て替えるなんて言う話はなかったのです。怒りが増幅し、一部修正して「ふるさと2026」として創り直しました。(B高畠)

私は日本国憲法です

札幌在住だった詩人永井和子さん(2015年81歳で他界)の詩集「憲法を詩(うた)う」に注目し、その詩集冒頭にある詩「私は日本国憲法です」に曲をつけたのが2008年でした。もう16年になります。それ以来一人で歌ってきたこともありますし、なによりもホームシックスのレパとなり、ここ最近は演奏機会が増えました。今回混声四部で書き直してたくさんのみなさんで歌っていただけることがうれしいです。エンディングに向かう5番の「世界から飢える人がいなくなるように　すべての命がいとおしまれるように」というところで私はいつも鼻の奥がツンとします。詩の強さと美しさが光っています。憲法が正念場を迎えているような気がします。「今　声を上げて守っていこう　私が　あなたの　憲法です」！(B高畠)